

# 伊勢市統計レポート



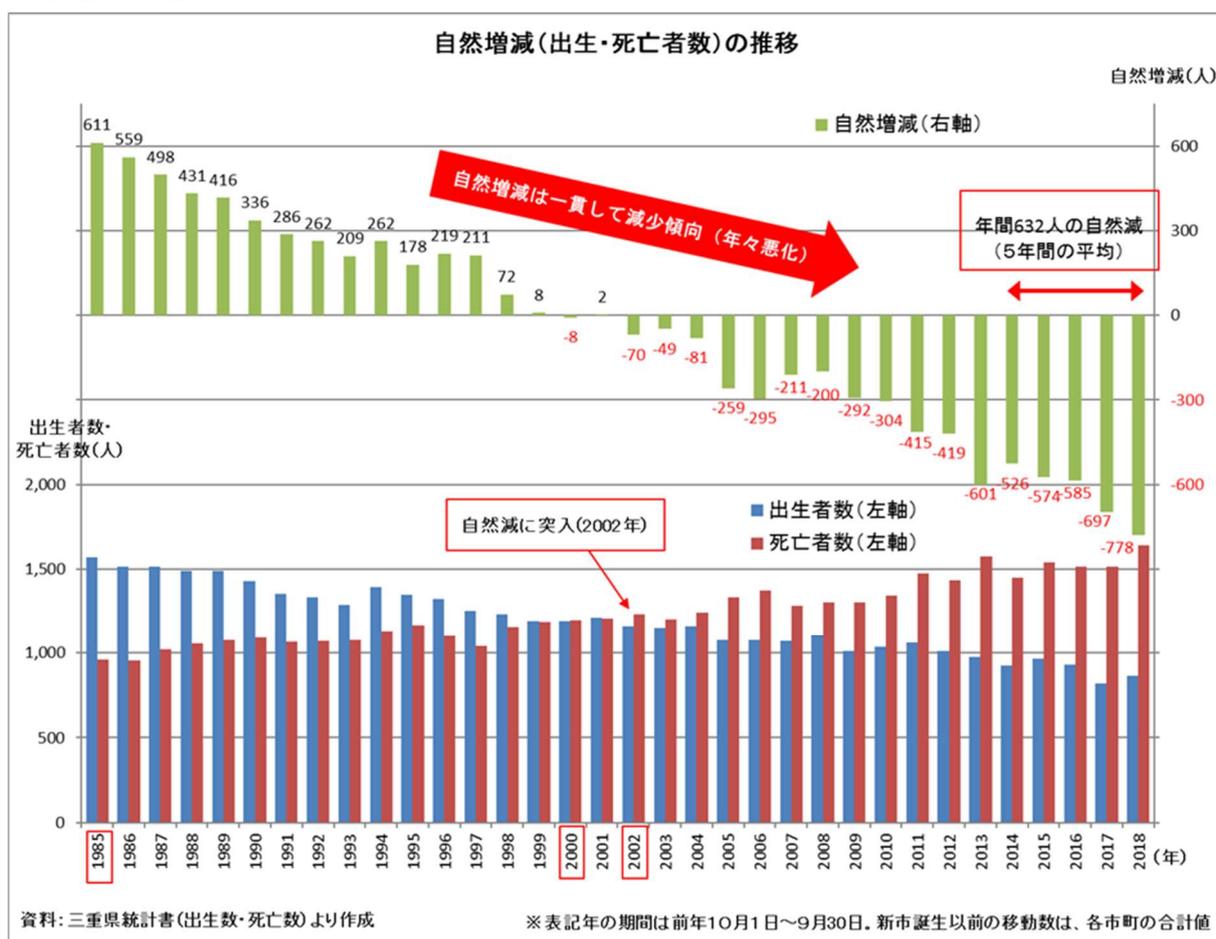
## 伊勢市人口ビジョン 令和2年3月版

### 【 自然増減の要因分析 】

「伊勢市人口ビジョン 令和2年3月版」で人口の現状を分析した結果、伊勢市の人口は減少局面にあり、死亡者数が出生者数を上回る「自然減」、転出者数が転入者数を上回る「社会減」の両方の影響で、今後さらに人口減少が進む懸念が明らかになっています。

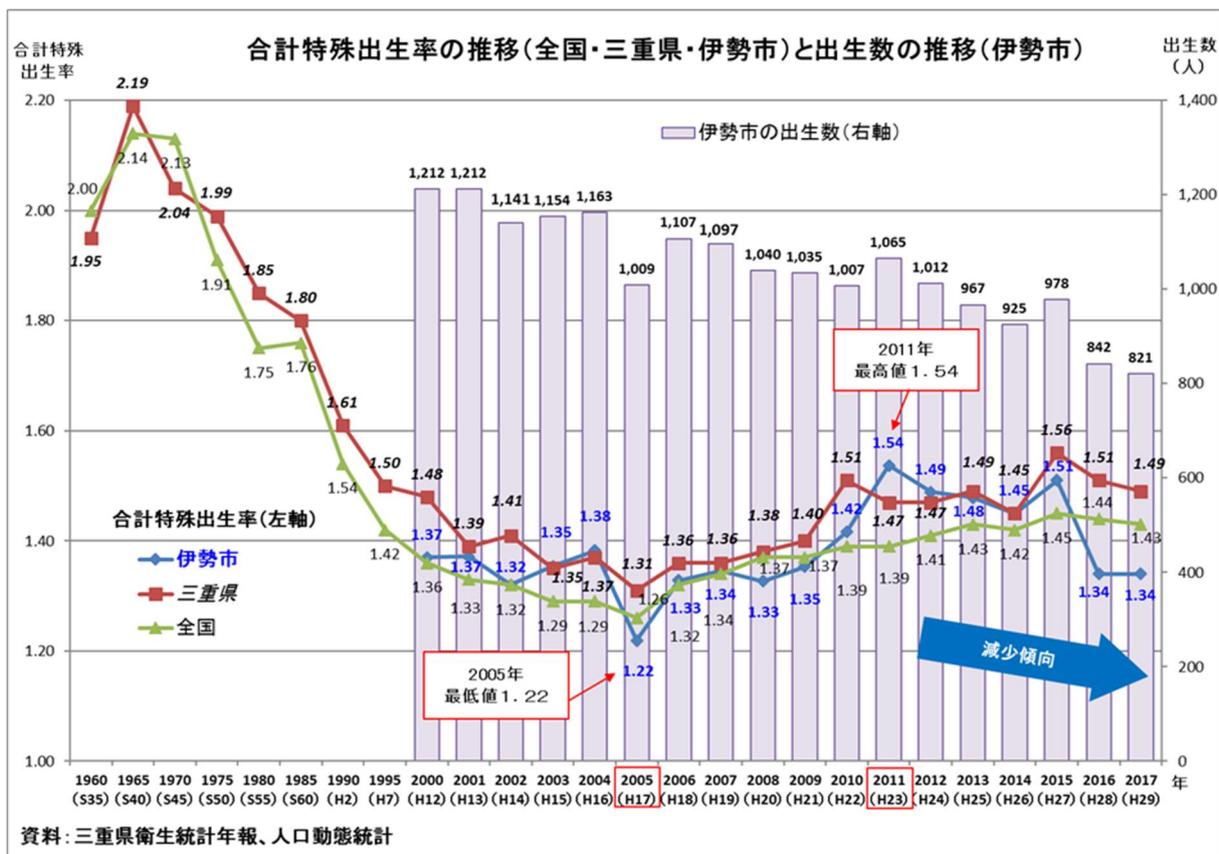
今回のレポートでは、伊勢市の自然増減（出生者数－死亡者数）の特徴をみていきます。

#### ■ 自然増減の推移



- ・1985年以降、出生者数はほぼ一貫して減り続けており、2002年以降は死亡者数が出生者数を上回る「自然減」が継続している。
- ◆既に高齢化が進んでいるため、いずれ高齢者数の減少に伴い死亡者数は減少に転じるものの、出生者数が改善し増加に転じて死亡者数を上回り続けられない限り、「自然減」の状態が継続する。

## ■ 合計特殊出生率の推移



- ・伊勢市の合計特殊出生率は、2005年に1.22と最も低かったが、それ以降上昇し、2011年に1.54と近年最高値を記録した。しかし、それをピークに減少傾向にあり、2016、2017年には1.34と落ち込んだ。(2018年は1.50になりました。)
- ・出生数は、概ね減少傾向にある。

※合計特殊出生率は、「15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、1人の女性が一生の間に産むであろう子どもの数に相当します。国立社会保障・人口問題研究所によると、人口置換水準(人口が長期的に増減せず一定となる出生水準)は2.06となっています。

## ■ 母の年齢階級別出生率・人口

- ◆合計特殊出生率の構成要素である母の年齢階級別出生率は、20代前半は低下傾向にあり、20代後半から30代が大きな割合を占めていることから、出生率の改善が図られたとしても、人口減少の克服には時間がかかることが予想される。
- ◆出生数が減少傾向にある現状は、出産適齢期の女性の総数が減少していることがその要因であるといえる。

## ■ 未婚率の推移

- ・未婚率は男女とも上昇傾向にあり、女性は三重県平均よりも高い状況が続いています。
- ・この30年間でもっとも未婚率が上昇したのは25歳～29歳の女性で、1985年の29.5%の2倍にあたる。30～34歳の女性も1985年から2015年には未婚率が3倍以上に高まっているなど、出産適齢期の女性の晩婚化が進んでいる。
- ◆20代後半以降の出産適齢期の女性を中心に晩婚化・未婚化が進み、前述の母の人口減少と併せて合計特殊出生率や出生数に影響を与えていると考えられる。